

## エジプト 東南アジア向けオレンジの輸出は史上最高に

EastFruit 2023年7月20日

エジプトは依然として東南アジアへのオレンジの最大の供給国であり、2022年10月から2023年5月までの期間に、すでに5万5,600トンのオレンジをインドネシア、マレーシア、シンガポール、カンボジア及びその他数か国に輸出した。この期間の過去の最高記録は2018/19年度の5万3,500トンであった。したがって、エジプト産オレンジの東南アジアへの輸出のピークが1月から5月の期間であることを考慮すると、2022/23年度(10月～9月)の最終結果は少なくとも記録破りに近いものになると見られる。

マレーシアは、東南アジアにおけるエジプト産オレンジの主要輸出先国であり、現在の販売年度の最初の8か月間の総輸出量の72%を占めている。シンガポールとインドネシアへの輸出量ははるかに少なく、1万2千トン及び3,200トンである。他の東南アジア諸国のエジプトからの輸入量は合わせて1千トン未満である。

東南アジアはエジプト産オレンジの主要市場の1つであるが、他のいくつかの地域にも輸出されている。たとえば、インドは過去2シーズンにエジプトから年間8万～10万トンのオレンジを輸入した。サウジアラビアとオランダへの輸出量はそれぞれ30万トン及び17万トンに達する可能性がある。

東南アジア(マレーシア、インドネシア、シンガポール、タイ、カンボジア)のオレンジの総輸入量は、毎年度15万～18万トンに達する。エジプトは依然として北半球におけるこれらの果実の主要な供給国であり、エジプトポンドの切り下げはこの地域におけるエジプトの立場を強化するものである。

さらに、エジプトは輸出が最も活発な時期に他の国々とほとんど競合しない。米国は東南アジアへのオレンジ輸出を毎年減らしており、中国のシェアはまだかなり小さい(7～11%)。一方、南アフリカは東南アジア市場で主導的な地位を維持しているが、それはエジプトからの輸入が最も少ない7月から10月の期間である。

## メキシコ 加米日でプレミアム品種のベリー類の需要が増加

FreshPlaza 2023年7月21日

米国、カナダ、日本の市場でのメキシコ産ベリー類の需要が増加しており、特にプレミアム品種は順調に増加している。メキシコの輸出業者ベリーラバーズ(Berry Lovers)社の営業部長であるヘラルド・ロペス氏は、「弊社は世界中のより多くの市場に参入しようとしている。この目標が最適な販売計画と物流の課題に密接に関連していることは明らかだ」と話す。(以下「」は同氏の発言)

同社は、メキシコのグアナフアト州レオン市を拠点としており、慣行栽培と有機栽培のブルーベリー、ブラックベリー、ラズベリー及びイチゴの4種類のベリー類を栽培・輸出している。ブルーベリーの品種は、ポップ(Pop)、ビューティー(Beauty)、アトラス(Atlas)、ビロキシ(Biloxi)等、ブラックベリーはスルタナ(Sultana)とトゥッピ(Tuppi)、ラズベリーはクラリタ(Clarita)、イチゴはサンアンドレア(San Andrea)とフロンテラ(Frontera)である。「主にラズベリーのクラリタ品種の増加と、セコヤ社(種苗会社)の品種の入れ替わりが見られる。」

2022-23年度の出荷量は、ブルーベリー2,800トン、ブラックベリー299トン、有機ブルーベリー195トン、ラズベリー105トン、イチゴ80トンであった。「弊社はメキシコ産ベリー類の生産・流通業者である。この始まったばかりの2023-24年度の予想出荷量は、ブルーベリー3千トン、ラズベリー400トン、ブラックベリー500トン、イチゴ500トン、有機ブルーベリー700トンである。」

同社は人々がこれらの大量のベリー類を楽しむことができる新しい市場を見つける必要がある。「弊社の主要な輸出市場はカナダ、米国、日本である。メキシコ産ベリー類、特に弊社が提供するプレミアム品種の需要は順調に増加している。弊社は、生産者と販売先の両方に対応し、特に双方に影響を与える価格変動を避けるため、出荷シーズンの開始前に出荷計画を立てようとしている。」

執筆者: クレイトン・スワート